

2022年の無人搬送車システム納入実績について発表します。

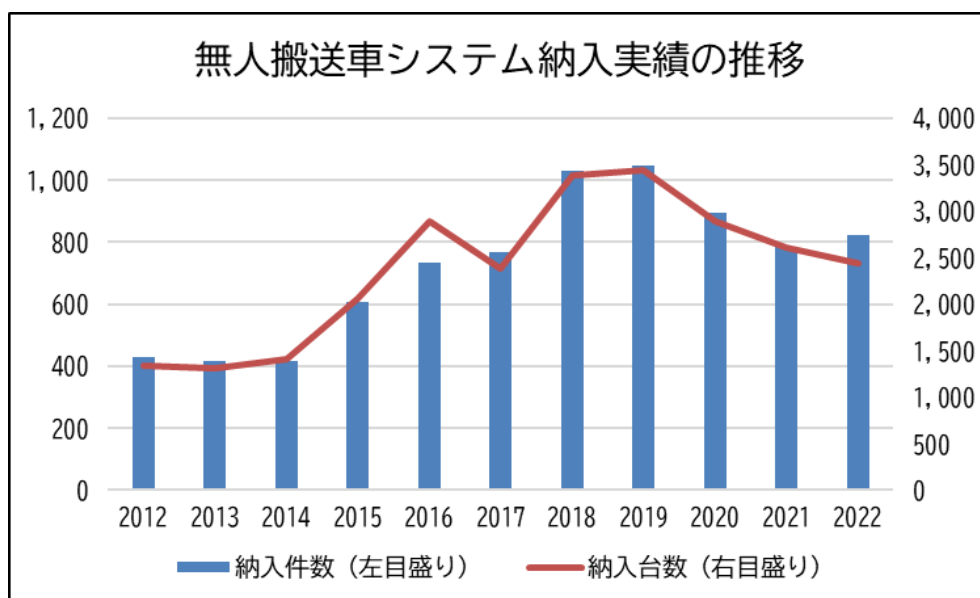
～納入システム件数は821件に増加、納入台数は2,441台へ減少、国内向け増も海外向けが減～

一般社団法人日本産業車両協会

一般社団法人日本産業車両協会（御子神隆会長（三菱ロジスネクスト（株）取締役会長））は、2022年1～12月分の、無人搬送車システム納入実績について発表した。

今月発行予定の協会会報「産業車両」誌9月号（2023年9月25日刊行予定）に、協会の無人搬送車システム委員会特別委員である上智大学名誉教授 荒木勉先生による解説記事を掲載し、詳細な分析を報告するが、概要は以下の通り。

- 2022年の国内向け、輸出向けを合わせた無人搬送車システム納入件数は821システム（対前年比104.7%）で3年ぶりの増加、納入台数は2,441台（同93.4%）で、3年連続の減少となった。過去の実績（実数値）は[こちら](#)から。納入システム件数では輸出向けが減少したものの、国内向けの増加がそれをカバーした。納入台数では国内向けはほぼ横ばいであったが、海外向けが大きく減少した。



- 無人搬送車システム納入件数の車両タイプ別の割合は、「無人搬送車（台車）」が46.7%（46.5%）、「無人けん引車」が46.4%（45.0%）、「無人フォークリフト」が6.9%（8.5%）となり、「台車」の割合はほぼ変わらず、「けん引車」では上昇し、「フォークリフト」の割合は2年連続で低下した。
（カッコ内は前年実績、以下同じ）

3. 無人搬送車システム納入件数の業種別割合は、「自動車・同付属品製造業」向けが 46.7% (44.3%) と最も多く、次いで「一般機械器具製造業」向けが 15.1% (10.3%) と上昇して、この 2 業種向けで全体の 6 割強を占めた。「弱電機械器具製造業」5.4% (9.6%)、「食料品製造業」が 3.5% (5.2%) は低下し、「化学・医薬品製造業」5.0% (4.1%) は上昇した。製造業向けが多くを占める傾向は変わらず、非製造業の「運輸・倉庫業」向けは 2.6% (4.2%)、「卸・小売業」向けも 2.2% (2.6%) と、前年と打って変わって構成比を下げた。
4. 無人搬送車システム納入件数の車両誘導方式別割合は、「磁気式」が 82.3% (84.7%) と圧倒的に高い傾向は変わらないが、今回調査から区分を細分した自律走行式のうち「SLAM 式」が 7.8% (6.6%)、「定点自己位置認識式」が 4.6% (1.5%) と構成比を上げ、「レーザー測距式」は 4.6% (5.7%) と低下した。
5. 無人搬送車システム納入件数の国内向け／海外向けの割合は、国内向けが 89.0% (87.1%) と 3 年連続で上昇し、海外向けは 11.0% (12.9%) と 3 年連続で低下した。1 システム当たりの台数では、国内向けは 2.9 台 (3.1 台)、海外向けは 3.5 台 (4.8 台) と、海外向けで減少した。

なお、本調査にご協力いただいた無人搬送車システムメーカーは 21 社である。

また、本会では「AGVS (無人搬送車システム) 導入ガイドブック」を PDF で無償提供しており、ご希望の方は、[本会ホームページよりお](#)申し込みいただきたい。

【参考情報：無人搬送車システムの規格策定・改正の状況】

(1) 国際安全規格 (ISO)

本会も審議に参加して 2020 年 2 月に発行された、初めての無人搬送車システムの国際安全規格 ISO3691-4 Industrial trucks. Safety requirements and verification. Part 4: Driverless industrial trucks and their systems) は、欧州機械指令に適合を図るため 2023 年 6 月に第二版が発行された。原文は日本規格協会の[サイト](#)から購入可能。

(2) 日本産業規格 (JIS)

ISO3691-4 第一版の発行に合わせ、本会が改正原案作成を行った JIS D6802 : 2022 「無人搬送車及び無人搬送車システム—安全要求事項及び検証」は 2022 年 2 月に発行された。

この規格は日本規格協会の[サイト](#)から購入することができる。

同 JIS では上記 ISO と同じく、磁気テープ等による誘導経路式と、誘導路や誘導体を要しない自律移動式のいずれの自動走行方式も規格の対象となる。

以上